

● 社会教育施設等の複合化事例

	施設名	自治体	主要機能	特徴（参考ポイント）	頁
①	豊富町定住支援センター 「ふらっと★きた」	北海道 豊富町	図書館・保健センター・学童等	延床2千㎡台 指定管理者	2
②	まちなかりビング北千里	大阪府 吹田市	図書館・公民館・児童センター等	延床2千㎡台 指定管理者 ゆるやかな機能分離	4
③	（仮称）第2中央生涯活動センター	埼玉県 熊谷市	市民活動支援センター・コミュニティセンター・公民館等 ※現在進行中	延床2千㎡台 総床面積削減 指定管理者（予定）	6
④	東根市公益文化施設 まなびあテラス	山形県 東根市	図書館・美術館・市民活動支援センター等	PFI 市民参加型運営	8
⑤	習志野市生涯学習複合施設 プラッツ習志野	千葉県 習志野市	図書館・公民館・市民ホール等	直営 PFI 市民参加型運営	10
⑥	利府町文化交流センター 「リフノス」	宮城県 利府町	図書館・公民館・文化会館等	貸室運用見直し 指定管理者	12
⑦	学びの杜ののいち カレード	石川県 野々市市	図書館・市民学習センター等	ゆるやかな機能分離 PFI	14
⑧	オガールプラザ	岩手県 紫波町	図書館・地域交流センター・子育て支援センター等	繋がりを感じられる分棟 PPP	16
⑨	みんなの賑わい交流拠点 KOMPAS	千葉県 香取市	図書館・子育て世代支援施設等	貸室運用見直し PFI 最新技術活用	18
⑩	武蔵野プレイス	東京都 武蔵野市	図書館・生涯学習支援、市民活動支援、 青少年活動支援等	ゆるやかな機能分離 指定管理者	20

①北海道豊富町 豊富町定住支援センター「ふらっと★きた」

フロアガイド 休館日：年末年始（12/31～1/5）

1階 図書館 9:00～21:00（日曜日は18:00まで）

- ・ 閲覧・読書コーナー
- ・ DVD鑑賞コーナー
- ・ パソコンコーナー
- ・ 絵本コーナー
- ・ 読聞かせコーナー

保健センター・地域包括支援センター 8:30～17:15（土・日・祝は休館）

- ・ 集団検診室
- ・ 検診室
- ・ 親子ルーム
- ・ 相談室

子育て・こどもエリア 9:00～21:00

- ・ 学童保育
- ・ ふれあい広場
- ・ 小体育館

活動交流エリア 9:00～21:00（町民以外の貸室利用料は20割増し）

- ・ 多目的ホール（2,000円/時）
- ・ 多目的活動室（500円/時）
- ・ 研修活動室（450円/時）
- ・ 調理室（500円/時）
- ・ スタジオ・カラオケ（500円/時）
- ・ 和室（300円/時）
- ・ 会議室1（300円/時）
- ・ 会議室2（300円/時）

【駐車場】約50台

【駐輪場】有り

[北海道豊富町人口3,551（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・ 主要機能 図書館、保健センター、学童等
- ・ 延床面積 2,806.25㎡
- ・ 敷地面積 9,886.78㎡
- ・ 構造 木造、一部鉄骨造、鉄筋コンクリート造
- ・ 階数 地上1階
- ・ 開館 平成 25年3月
- ・ 総工事費 9.5億円

【施設整備の背景】

- ・ H20：豊富町中心市街地区都市再生整備計画策定し、定住支援センターの整備を基幹事業として位置づけ
- ・ H22：まちづくり協議会にて、保健センターと老朽化した公共施設を統合して、行政サービス拠点施設（定住支援センター）としての整備を決定

【コンセプト、愛称】

- ・ 「ふらっと」は英語のフラット。皆で空間をシェアしていく。（分け合う。）年齢に関係なく、誰でも楽しめる、気軽に立ち寄れるところ。「きた」は道北、北。「ふらっと」と「きた」をつなげて、ふらっと来てね、という意味も込められている。

豊富町定住支援センター「ふらっと★きた」

事業手法等

【事業手法】 指定管理者

【事業主体】 特定非営利活動法人くらすた豊富

特記事項

【地場産木材の利用】

- ・ 矩形の高い天井は、地元のトドマツの集成材の水平梁を現しとし、内部空間をより広く確保するためにコンクリートの板柱が外壁側に組み込まれ、不足する水平力を広い平面内にコンクリートコアとして分散確保し、鉛直力は細い鉄骨柱とすることで、シンプルで開放的な空間を実現している。

【設計時に利用者のタイムテーブルを作成】

- ・ 設計時には、庁内の文化団体や町内会、保育園や学童保育の関係者、中高生とのワークショップを重ね、諸室利用時間のタイムテーブルモデルをつくりながら空間の配置や使い方を模索。時間や状況に応じて柔軟な運営が可能となり、空間の利用頻度を高める計画とした。

管理運営・施設の特徴

キャッチコピー：ふらっと来たら、みんないた。 とよとみニケーション

1. あらゆるコミュニケーションを豊かにする多機能性

- ・ 「保健センター」「図書・情報」「子育て」「多世代交流」の4つの主要機能を持ち、それぞれが連携して住民の様々なニーズに応えている。これにより、あらゆる世代が気軽に利用し、自然に交流が生まれる施設となっている。

2. 施設の開放性

- ・ 和室や研修活動室、多目的ホールは使用のないときは無料で開放されており、住民が日常的におしゃべりや勉強、相談などに利用できる空間として提供されている。
- ・ センターの東側（裏側）の多目的広場の利用は自由で、互いに譲り合っでの利用を促している。
- ・ 近郊の方や旅行者の利用を促しており、地域外からの利用者にも開かれた施設となっている。

3. 建築デザイン

- ・ 施設は厳しい寒冷地に建てられており、外側は断熱材で包みつつ、内部に光を取り込むためにウチニワやトプライトが設けられている。木造架構と鉄筋コンクリートの組み合わせにより、地震力にも耐えうる構造となっている。
- ・ 近接する施設群の中心に位置することから、矩形の四方向を欠き取って入り口を設け、大きな採光を集約したエネルギー効率の高い、北国にとって合理的な計画となっている。

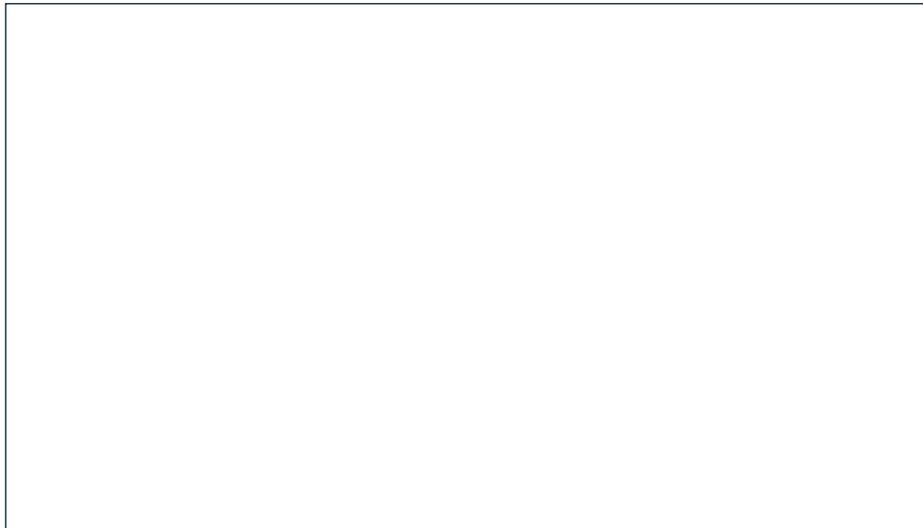
4. コミュニティ形成・住民参加の取り組み

- ・ 近接する保育園や役場庁舎、図書館機能と連携し、公共施設同士のネットワークを形成している。これにより、地域コミュニティの結びつきを強化し、住民が集う中心的な場所となっている。
- ・ 教科書の展示や図書室での古本集めなど、住民が関心を持ちやすいイベントを定期的開催。これらを通じて施設の利用促進が図られており、住民の参加を促し、施設への関心を高めている。

7. 利用者の声を反映

- ・ センターは平成29年度より指定管理者制度を導入し、多くの利用者の声を反映して運営が行われ、利用者中心のサービス提供が可能となった。

②大阪府吹田市 まちなかりビング北千里



[大阪府吹田市人口383,281人 (R6.5月現在)]

【施設概要】

- ・主要機能 図書館、公民館、児童センター
- ・延床面積 2,923.6㎡ (児童センター400.76㎡、公民館605.60㎡、図書館865.78㎡、共有部分 1,051.46㎡)
- ・敷地面積 約5,250㎡
- ・構造 主体構造：鉄筋コンクリート造
一部構造：木造、鉄骨造、プレストンクリート造
- ・階数 地上2階、地下1階 (立地構造上存在フロアはなし)
- ・開館 平成28年
- ・総事業費 約21億 (見込) (主な財源…都市構造再編集中支援事業交付金、特定財源、一般財源)

【施設整備の背景】

- ・H21：北千里小学校廃校
- ・H26～28：北千里駅周辺活性化ビジョン策定
- ・H28：「吹田市立地適正化計画」においても、北千里・山田・南千里・桃山台区域では、保育所、認定こども園、児童館、子育て支援施設、大学、図書館、コミュニティセンターを都市機能誘導区域(駅から800m圏内)の誘導施設として位置づけ
- ・H30：北千里小学校跡地複合施設 建設整備基本構想作成
- ・R元：北千里小学校跡地複合施設 建設整備基本計画策定
- ・R4：北千里小学校跡地複合施設竣工、供用開始

※施設整備の背景の年は年度表記

フロアガイド

休館日：①年末年始12月29日～1月3日

②毎週火曜日、祝日の翌日、年末年始12月29日～1月3日

③年末年始12月29日～1月4日

開館時間：①午前10時～午後6時②午前10時～午後10時③午前10時～午後8時

①北千里児童センター

②北千里地区公民館

③北千里図書館

2階

屋外テラス

図書館 10時～20時

- ・ロビー (マンガ・YA)

公民館 10時～22時

- ・会議室1・2・3・4・5
- ・調理実習室、工作室、陶芸窯室、和室
- ・視聴覚室

1階

屋外

- ・わんぱく広場、遊具コーナー

総合事務所

- ・総合受付、ウェルカムホール

図書館 10時～20時

- ・図書館カウンター、返却ポスト、予約棚コーナー
- ・ブラウジングコーナー
- ・対面朗読室
- ・学習兼会議室
- ・CD/DVDコーナー
- ・返却ポスト
- ・窓側閲覧席・児童閲覧席

児童センター 10時～18時

- ・乳幼児室
- ・見守り室
- ・遊戯室1・2
- ・子供学習室
- ・集会室
- ・児童カウンター
- ・おはなしスペース

[駐車場] —

[駐輪場] 50台 3時間まで無料 自転車300円 単車400円

事業手法等

【事業手法】 指定管理者

【事業主体】 T R C北千里共同事業体

(構成企業)

株式会社図書館流通センター、社会福祉法人光聖会、株式会社長谷工コミュニティ

特記事項

【北千里小学校跡地等北東側利活用事業】

- ・R5年度に、北千里小学校跡地及び北千里保育園跡地の新たな利活用として、残る北東側の土地について、その一部を事業者の有償貸付したうえで、提案施設の建設及び運営に係る公募型プロポーザルを実施。
- ・J R西日本アーバン開発（神戸市東灘区）を契約事業者に決定。提案によると、カフェ・レストランなどが入る2階建ての建物2棟を整備、2024年度末の開業を予定しており、今後一層の賑わいが期待される。

管理運営・施設の特徴

キャッチコピー：多世代が出会い、つながり、交流する滞在型施設

1. 各機能を融合

- ・児童センターと図書館で乳幼児室を共用にするなど、児童センター、公民館、図書館をゆるやかにゾーニング。また、3施設の事務所を統合し、一つの総合窓口とすることで円滑な運営を実施。

2. 環境に配慮した木のぬくもりを感じる施設

- ・構造の一部にCLT（引き板を並べた後、繊維方向が直交するように積層密着した木質系材料）を用い、各部屋の内装には、能勢町産材などの府内産材を中心に国産材を利用し、図書館部分の書架やカウンターなどにも利用。木のぬくもりが感じられる施設になっている。
- ・太陽光発電システム、LED照明などを取り入れるなど、環境にも配慮している。

3. リビングのような居場所 滞在型施設

- ・リビングが家族の結びつきを育む場であるように、ここに気軽に訪れることで、心をはぐくめる居場所をめざし、入館すればどこにいても、公民館、図書館、児童センターを感じる設計。
- ・図書館は北千里分室から移転したことで、閲覧席数や蔵書の数が増え、これまで以上にゆっくり読書を楽しむことができる空間となった。
- ・2階に10歳代を対象としたYAコーナーを新設。そのほかCDやDVD、マンガも貸し出しするほか、館内に自習室も設置、中高生の居場所スペースともなっている。
- ・共有部分の階段に本を配架。入館するとすぐに目に留まり本に誘われる、本に興味を持ってもらうためのしかけが施されている。
- ・飲食可能エリアが決められており、サイレントコントロールがされている。

4. 公民館

- ・会議室3には、収納式ステージ、150インチ電動スクリーン、プロジェクター、AVワゴン、マイク、スピーカーなどの音響設備、約4m幅の大型鏡）を備え、会議室1・2、会議室2・3、会議室1・2・3のパターンで同時にご利用可能な空間となっている。
- ・2階部分に公民館機能を集約し、各部屋への移動をスムーズにした。利用時間は最小30分～可能

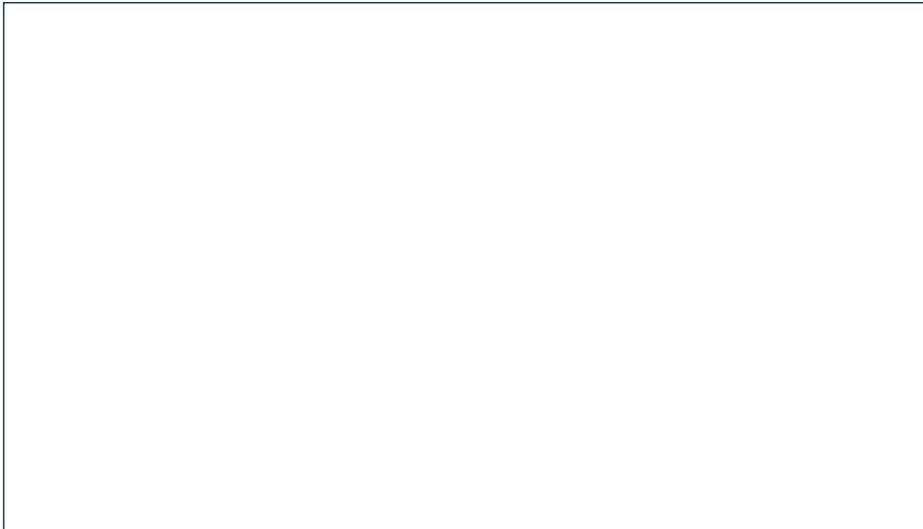
5. 子供と子育て世代を応援する笑顔の生まれる児童センター

- ・利用は小学生以下。未就学児は保護者同伴で、複合施設という特徴を生かし、図書館の借出カードを児童センターの使用証として登録。
- ・小学生が中心となって、「どんな風に遊びたいか」など、さまざまなテーマについて話し合い「こども会議」を開催しており、楽しみながら、体験や学びを得られるように支援している。

6. 市民参画

- ・北千里小学校跡地等の利活用の検討にあたっては、市民アンケートやWS（6回）、説明会等実施。

③ (仮称) 第2中央生涯活動センター



[埼玉県熊谷市人口187,134人 (R6.6月現在)]

【施設概要※基本設計資料より】

- ・主要機能 市民活動支援センター、コミュニティセンター、公民館等
- ・延床面積 2,930㎡ (1階：1,450㎡ 2階：1,480㎡)
- ・敷地面積 約7,700㎡
- ・構造 鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造)
- ・階数 地上2階
- ・開館 令和9年10月予定

【施設整備の背景】

- ・生涯活動センターのモデルケースとなる「(仮称) 第1中央生涯活動センター基本構想・基本計画」を踏まえ、(仮称) 第2中央生涯活動センターに関し、市の計画・施策体系における位置付け。
- ・市民活動支援センター、コミュニティセンター、大原公民館、上石公民館、荒川公民館 (少なくとも 2044 年度までは存続し、その後集約予定)、婦人児童館 (石原公民館)、勤労青少年ホーム、勤労会館、勤労者体育センター、老人憩の家荒川荘の集約化を図ることとした。
- ・R4：(仮称) 第2中央生涯活動センター基本構想・基本計画を策定
- ・R5：基本設計作成

※施設整備の背景の年は年度表記

フロアガイド休館日：未定
未定

2階

生涯活動センター

- ・スクラムホール
- ・オープンサイドルーム大 (204席)
- ・アクティブフィールド (体育館)
- ・音楽ルーム (2室)
- ・多目的ルーム小 (1室：ダンスや舞踊・バレエ等利用想定)
- ・多目的ルーム中 (1室：ダンスや舞踊・バレエ等利用想定)
- ・多目的ルーム大 (1室：ダンスやコーラス・卓球などの利用想定)
- ・ウッドデッキ

諸室

- ・更衣室

1階

生涯活動センター

- ・スクラムホール
- ・受付相談カウンター
- ・生涯活動支援スペース
- ・活動ルーム小 (4室)、活動ルーム中 (2室)、活動ルーム大 (2室)
- ・オープンサイドルーム小
- ・キッズスペース

諸室

- ・受付
- ・事務室
- ・公民館事務室
- ・更衣室
- ・授乳室
- ・印刷室
- ・貸ロッカー

[駐車場] 自動車 134台

[駐輪場] バイク 10台 自転車 36台

(仮称) 第2中央生涯活動センター

事業手法等

【事業手法】 指定管理者 予定

【事業主体】 未定

特記事項

【基本設計時での変更】

- ・令和10年4月の供用開始を目指し、整備事業を進めてきましたが、基本設計業務において、建物の階数を3階建てから2階建てに変更するとともに、基礎構造を杭基礎から直接基礎とした。
- ・その結果、建設工事期間が、基本構想等で想定した期間から大幅に短縮できる見込みとなり、供用開始を6か月早め、令和9年10月1日に変更。

管理運営・施設の特徴

キャッチコピー：つながるフィールド～生涯活動拠点～

1. 公共施設マネジメントの一環として施設を再編

- ・対象施設が10施設（市民活動支援センター、コミュニティセンター、大原公民館、上石公民館、荒川公民館（少なくとも2044年度までは存続し、その後集約予定）、婦人児童館（石原公民館）、勤労青少年ホーム、勤労会館、勤労者体育センター、老人憩の家荒川荘）と多いことから、施設計画の考え方として集約対象施設の課題、市民ニーズ（アンケート）及び職員ワークショップで出た意見等を踏まえ、基本的な考え方を整理した。
- ・集約対象施設の延べ面積の合計は7,320㎡あるが、再編・集約化により延べ床面積は2,930㎡となり、延べ面積の削減率は約60%に及ぶ。
- ・建物の維持管理費と施設規模には一定の相関関係があることから、昨今の維持管理コストの上昇を見込んだとしても、総経費削減に寄与することが期待できる。

2. ラグビーのまちをらしさを随所に

- ・施設全体をフィールドに見立て、市民が協働して（スクラムを組んで）、地域の活動が活性化することを期待している。
- ・生涯にわたってさまざまな活動ができる市民のフィールドをつくり、熊谷の市民の活動のシンボルとしてまち全体に深く根付く施設を目指している。

3. 施設の一体感

- ・誰でも自由に利用できるホール（スクラムホール）を施設の中心に据え、その一角に「生涯活動支援スペース」を設け、活動ルームや多目的ルームなどの貸室は、ホールを取り囲むように配置し、施設全体で回遊できるよう設計。
- ・2階には、運動や音楽の演奏ができる貸室をまとめて配置。
- ・従来利用機会の少なかった青少年の活動場所・滞在場所として新しい世代が利用しやすい環境をつくっている。

4. 来る災害に備えた浸水対策

- ・設備機器は、すべて屋上に設置。器具庫の一角には、防災備蓄品を保管するスペースを確保している。

④山形県東根市 東根市公益文化施設 まなびあテラス

フロアガイド

休館日：図書館/美術館/市民活動支援センター 第2・第4月曜日、12/29～1/3

2階 ・ 管理系諸室

1階 **図書館 9時～20時（日曜・祝は19時まで）**

- ・ 自動貸出機
- ・ 自動返却機
- ・ 24時間受け取りボックス
- ・ 予約受け取り棚
- ・ おはなしの部屋
- ・ 読書テラス・キッズテラス
- ・ ティーンズコーナー
- ・ 授乳室
- ・ 幼児用トイレ

美術館 9時～18時（アトリエは21時30分まで）

- ・ 市民ギャラリー
- ・ アトリエ

市民活動支援センター 9時～21時30分

- ・ 支援窓口
- ・ 情報ラウンジ
- ・ 地域情報アーカイブシステム
- ・ 講座室
- ・ プリント工房
- ・ メールボックス
- ・ 貸しロッカー

[駐車場] 無料駐車場約150台

[駐輪場] 駐輪場100台

[山形県東根市人口47,554人（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・ 主要機能 図書館、美術館/市民ギャラリー、市民活動支援センター等
- ・ 延床面積 4,401㎡
- ・ 敷地面積 5,880.0㎡
- ・ 構造 鉄骨造・一部鉄筋コンクリート造
- ・ 階数 地上2階
- ・ 開館 平成28年
- ・ 総工費 34億円（主な財源…都市再生整備計画事業費交付金、地域活性化事業債、基金、一般財源）

【施設整備の背景】

- ・ H13：第三次東根市総合計画にて「総合文化・学習施設の推進」を明記区画整理事業地内に用地を確保
- ・ H23：第四次東根市総合計画にて「公益文化施設整備プロジェクト」と位置づけ
- ・ H24：公益文化施設整備市民検討委員会発足
- ・ H25：公益文化施設整備基本構想・基本計画策定、PFI基本方針策定・導入可能性調査実施、実施方針公表

【コンセプト、愛称】

- ・ 「集い、学び、創造する 情報と芸術文化の交流拠点」

事業手法等

【事業手法】PFI（BOT方式）
【事業主体】メディアゲートひがしね

（構成企業）

鹿島建設株式会社（代表企業）
株式会社 山下設計、株式会社 図書館流通センター、
三菱電機ビルテクノサービス株式会、株式会社 山形ビルサービス、NECキャピタルソリューション株式会社

特記事項

【民間事業者の創意工夫】

- ・要求水準書の内容を可能な限り限定しないことで、民間事業者の創意工夫による質の高いサービスが展開しやすくなっている。

【受賞】

- ・H28：照明普及賞
- ・H29：第10回地域づくりのやまがた景観賞・山形経済同友会賞
- ・H31：子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰

管理運営・施設の特徴

キャッチコピー：

1. 東根市初の美術館

- ・市内初の美術館は、「一流の芸術作品の鑑賞」と「多様なアート・プロジェクトへの参加」を両輪としている。ファインアートから現代アートまで一つの型にはまらない魅力的な展覧会を開催するとともに、そこで磨かれた感性を日常の創作活動やワークショップへの参加等で表現力へと高めていく、市民が主役の美術館として位置づけられている。
- ・美術館（市民ギャラリー）は、市内外を問わず、希望者が作品を展示することができ、**市民の芸術・文化活動の拠点として機能している。**
- ・市民ギャラリーと特別展示室は、柱のないオープンなつくりとし、可動間仕切りにより、さまざまな展示パターンに**フレキシブルに対応できる空間**となっている。。

2. 地域への貢献-市民活動の場の提供、地元雇用創出

- ・**市民活動の場の提供**：単に市民活動を実施するための場所を貸し出しているだけでなく、市民活動に関する相談や支援、情報の発信、団体同士の情報交換や交流の場の提供を行っている。
- ・美術館（市民ギャラリー）は、市内外を問わず、希望者が作品を展示することができ、**市民の芸術・文化活動の拠点として機能している。**
- ・本施設でSPCに協力する企業の多くは地元企業であり、図書館のスタッフや、カフェの店員などに多くの地域住民を雇用することで、**地元の雇用創出効果も有している。**

3. 図書館

- ・再編前の約4倍の最大20万冊（開館時12万冊）の蔵書数を誇る。趣味や暮らしなどの身近な本から、なかなか手にすることができなかった専門書、自宅のパソコンなどでも閲覧できる電子書籍まで、幅広い分野の本を手にすることが可能となった。
- ・開館日は年間約330日と開館日が増加、予約した本を無人で受け取れるIC予約本受取り棚や、電子書籍の閲覧が可能な電子図書館サービス、および地域映像アーカイブシステムなどを提供、**利用者の利便性向上につながっている。**

4. 環境配慮

- ・緑豊かな公園と調和した建築設計により、環境に配慮した施設運営を心がけ持続可能な文化施設を目指している。

5. 市民参加型の運営

- ・サポーターズクラブ（ボランティア組織）による活動を取り入れるなど、施設の運営には市民の参加を重視しており、市民自身が施設の担い手となり、地域における交流や発表の場として機能している。市民活動の場の提供を通じて、**市民参加型の運営が行われている。**

⑤千葉県習志野市 習志野市生涯学習複合施設プラットフォーム習志野

フロアガイド休館日：（全館共通）年末年始
（図書館、フューチャーセンター）毎週月曜日、年末年始

	北館	南館
4階	中央図書館9時～20時 ・一般フロア・学習室・ボランティア室	
3階	中央図書館9時～20時 ・こどもとティーンズのフロア （こどもカウンター、おはなし室、 児童書研究コーナー、こども用トイレ 子育て情報コーナー、授乳室） ・音楽のフロア（CD・DVD、音楽関係 書） ・グループ学習室・対面朗読室 中央公民館9時～21時 ・会議室・工房・調理	
2階	中央図書館9時～20時 ・図書カウンター・ラウンジ 中央公民館9時～21時 ・市民ホール・ホワイエ・控室 フューチャーセンター10時～16時	体育館9時～21時 中央公民館9時～21時 ・多目的室(3)
1階	中央公民館9時～21時 ・調理室(2)・こどもトイレ ・こどもスペース・授乳室 ・多目的コーナー ・トレーニングコーナー ・更衣室（男子用・女子用） ・サークル備品庫	中央公民館9時～21時 ・集会室(3)・研修室(2)・音楽室(3) ・和室(2)・授乳室・給湯室 ・サークル備品庫・印刷室

【駐車場】

立体駐車場152台

思いやり駐車場：立体1台北館3台南館1台

2時間半まで100円。以降30分毎に100円。（施設利用者は1時間無料）

【駐輪場】

北館188台南館18台図書館前17台駐輪場棟24台

[千葉県習志野市人口174,812人（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・主要機能 図書館、公民館、市民ホール、体育館等
- ・延床面積 北館4,866.35㎡ 南館2471.65㎡
- ・敷地面積 北館5,944.85㎡ 南館3838.24㎡
- ・構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
- ・階数 北館：地上4階 南館：地上2階
- ・開館 令和元年9月

【施設整備の背景】

- ・京成大久保駅周辺の公共施設の老朽化が進行しており、施設機能の強化・充実の必要性が高まっていた。
- ・H24：「公共施設再生基本方針」においてモデル事業として位置づけ
- ・H27：大久保地区公共施設再生事業基本計画を策定
- ・習志野市初のPFI事業として「大久保地区公共施設再生事業」を実施。

【コンセプト】

～さまざまな人が気軽に集い、いろいろな活動が行われる中で人と人が出会い、「和」と「話」と「輪」を繋げ、未来へ向けた新しいまちづくりが始まる～

※施設整備の背景の年は年度表記

事業手法等

【事業手法】 PFI

【事業主体】 習志野大久保未来プロジェクト (株)

(構成企業)

【施設全体】 : スターツコーポレーション (株)

【図書館】 : (株) 図書館流通センター

【フューチャーセンター】

: スターツファシリティサービス (株)

【植栽・公園管理】

: (株) 日比谷アメニス

特記事項

【オープン前からの市民参加】

- ・「ならしのスタディーズ」として、オープンの約2年半前からイベントを開催し、人材の発掘やネットワークの醸成に取り組んだ。
- ・団体同士のコラボレーションや、施設のオープニングイベントの企画運営などへ展開。
- ・事業は「フューチャーセンター」へ引き継がれた。

【課題】

- ・調理室の稼働率が低い。

管理運営・施設の特徴

キャッチコピー：集い・出会い・交わり・つながる

1. 市民が主役となり活動する「場」から、公園全体のコミュニティの活性化

- ・既存の8施設（7建物）の機能を保ちながら、中央公園周辺の3建物に集約
- ・公民館や図書館等の施設と公園とを合わせた生涯学習複合施設「プラットフォーム習志野」をPFI事業により実施。図書館の選書・レファレンスや公民館講座の企画等の業務は市の直営により社会教育の機能を維持しつつ、施設の集約化や一括管理、長期を見据えた効率的な整備、人員配置の工夫等によって行政コストの抑制が図られている。
- ・「集い・出会い・交わり・つながる」をテーマに、以下6つの機能を有する。◆公民館機能（中央公民館）イベントの企画・運営等を実施。◆ホール機能（市民ホール）市民団体の活動の場としてだけでなく、コンサート・講演等の会場として利用可能。◆図書館機能（中央図書館）◆フューチャーセンター住民が地域課題について議論するワークショップ等を開催。◆中央公園体育館◆多目的広場、パークゴルフ場
- ・これらの市民が主役となり活動する「場」を“ステージ”と見立てて、それぞれの“ステージ”が大きな環でつながり、公園全体のコミュニティの連鎖を促す施設となっている。

2. 「市民の、市民の手による、市民施設の自主運営」のためのプラットフォーム

- ・様々な関係者が集い、市民の社会活動への参加をバックアップし、未来志向の対話を後押しするプラットフォームとして、コミュニティスペース「フューチャーセンター」が存在する。
- ・プラットフォーム習志野を多くの人にとっての「活躍舞台・交流拠点」とするため、市民・団体・学校・企業・行政の交流や協働、対話を後押ししている。
- ・プラットフォーム習志野を舞台に「自らの暮らしを楽しくする活動」と「習志野を元気にする取り組み」を両輪に活動を行うクラブ「ならしのクリエイターズ」があり、自分たちの暮らしの近くに、学び、遊び、交流できる場所を、仲間と共につくっている。

3. 公民館の貸室事業

- ・個人では利用できず、3名以上の団体利用登録（市内在住者又は在学・在勤者が半数以上含まれている）が要件となっている。
- ・利用回数については、月3回、12時間以内となっており、多くの方が利用できるよう、利用制限を設けている。（現在の登録団体は200程度）
- ・指定管理者による自主事業を各部屋で実施しており、常に利用者がある。自主事業を多くじっししており、利用者から予約がしづらいといった声もあり課題となっている。

4. 施設利用料の有料化

- ・備品庫や駐車場の利用に関し、有料化を実施。（前身の中央公民館は無料）

⑥宮城県利府町 利府町文化交流センター「リフノス」

フロアガイド

休館日：図書館/公民館/文化会館 第2・第4月曜日、12/29～1/3
カフェレストラン 月曜日、12/29～1/3

2階

公民館 9時～21時

- ・研修室①～④（4部屋に間仕切り可能、計84席）
- ・創作室①（部屋に面したテラスに陶芸窯を設置、25席）
- ・創作室②（絵画、書道等での利用、36席）
- ・和室（茶道教室、子育てサークル等での利用、15畳敷）
- ・学習室（間仕切りの卓上スペース、24席）
- ・スタジオ（防音）①（コーラス練習、軽運動等での利用、壁に鏡を設置）
- ・スタジオ（防音）②（楽器演奏の練習等での利用）
- ・クッキングスタジオ（調理テーブル6台、37席）
- ・ラウンジ（ミニ展示会、軽飲食可能なスペース）

1階

図書館 9時～20時

- ・おはなしのへや（ドーム型）
- ・児童図書コーナー
- ・グループ学習室
- ・静読室
- ・ボランティア室兼対面朗読室
- ・CD・DVD視聴ブース
- ・閲覧席
- ・子ども用トイレ・授乳室

文化会館 9時～21時

- ・舞台のある431席の多目的ホール
- ・階段状の座席は収納できるためフラットホールとしても利用可能

カフェレストラン 9時～21時30分（ラストオーダー21時）

- ・ドリンク、スイーツ、食事を提供するカフェレストラン（アリーノ）

[宮城県利府町人口35,790人（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・主要機能 図書館、公民館、文化会館、カフェ等
- ・延床面積 5,205㎡
- ・敷地面積 22,339㎡
- ・構造 鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
- ・階数 地上2階（一部3階建）
- ・開館 令和3年7月

【施設整備の背景】

- ・H17：図書館建設計画を策定、震災等の社会情勢により中断
- ・「利府町総合計画」や文化芸術の総合的な推進を図ることを目指して策定した「利府町文化芸術振興基本方針」の中で、文化芸術の拠点となる施設整備について検討することを位置づけ。
- ・H24：住民アンケート調査の結果を踏まえ、芸術・文化活動を支援するための複合施設整備について検討開始
- ・H25：利府町文化複合施設基本構想・基本計画を策定
- ・H26：利府町文化複合施設整備計画策定

【コンセプト、愛称】

- ・地域文化の発展と成長を促す新拠点として、愛称「リフノス」には鳥の巣のように多くの住民が集まり育つ場所にするという願いが込められている。

※施設整備の背景の年は年度表記

【駐車場】敷地内北側に約380台（おもいやり駐車場6台）

【駐輪場】敷地内西側に約70台

利府町文化交流センター「リフノス」

事業手法等

【事業手法】 指定管理者
【事業主体】 利府みらいクリエイティブ

(構成企業)
【公民館・文化会館】 : アクティオ(株)
【図書館】 : 丸善雄堂(株)
【施設管理】 : (株)東急コミュニティー

- ・民間企業のノウハウを活用するため、指定管理者制度を採用。
- ・公民館、文化会館、図書館の大きく分けて3つの機能が融合した施設を1つの企業で対応することが困難であることから、それぞれの分野に長けた3社で構成された共同企業体により運営されている。
- ・カフェレストランは、丸善雄堂(株)がテナント方式で運営し、指定管理者に賃料を支払っている。

特記事項

【利用者アンケート調査】

- ・毎年、定期的に利用者アンケート調査を実施し、施設の管理運営に反映している。

【定期的な情報誌の発刊】

- ・図書館だよりを月1回、施設イベント情報を年間4回発刊している。

管理運営・施設の特徴

キャッチコピー：住民みんなで支え成長する新拠点

1. 公民館機能の充実

- ・公民館には、新たに「スタジオ（防音）」、「創作室」、「学習室」、「ラウンジ（フリースペース）」を設けた。また、利用登録団体を対象に有料の貸出口ロッカーを備えた。
- ・開館の8カ月前に、公民館の利用団体等を対象に、新施設の使用料や予約手続き等に関する説明会を開催している。

2. 利用率の高い「学習室」

- ・区切られた卓上スペースでプライベートを確保して学習が可能(24席・フタつき飲み物のみ可)。
- ・利用率が高く、長時間占有を避けるため、2時間の利用制限を設けている。

3. 公民館の減免基準の見直し

- ・公民館の移転に伴い、10割、8割、5割の減免基準の見直しを行った。
- ・社会教育団体の利用に適用していた8割減免を廃止し、5割減免に統一するとともに、10割減免は、町主催及び学校教育での利用に適用するなど厳格化した。

4. 指定管理者制度を採用したことによる従来との比較・メリット等

- ・公民館の運営に関して指定管理者制度を導入。東北地方では先進的。
- ・土日夜間の事業の企画運営が充実し、SNSやリーフレットによる各種講座等のイベント情報の発信力も高まった。
- ・独自の人材教育（研修等）により、施設案内を含めてスペシャリスト的なサービス提供が可能となった。
- ・減免した場合の施設使用料については、町がその分を指定管理者に補填している。

5. 地域の力を取り入れた事業や補完の文化会館のピアノ購入のために寄付金を募集

- ・文化会館のピアノ購入のために寄付金を募集。町内外172件、225万円が寄せられた。
- ・「シンボルツリーの灯」イルミネーション事業には協賛金を事業者・個人から募集し実施。

6. 観光大使の活用

- ・会館記念式典には観光大使の荒川静香さんらが出席して開催。
- ・図書館の「おはなしのへや」には、荒川さんの夢や成長のストーリーが描かれているほか、シンボルツリーにはモニュメント等設置している。

⑦石川県野々市市 学びの杜ののいち カレード

フロアガイド

休館日：毎週水曜日、12/29～1/3、特別整理期間（図書館のみ）

2階 図書館 9:00～22:00

- ・学習室
- ・グループ学習室
- ・小会議室

1階 図書館 9:00～22:00

- ・一般図書スペース
- ・児童図書スペース
- ・サイレントコーナー
- ・ヤングアダルトスペース
- ・レファレンスカウンター
- ・PCブース
- ・AVブース

市民学習センター 9:00～22:00

- ・市民展示室（屋外ギャラリー）（11,000円/日）
- ・オープンギャラリー（11,000円/日）
- ・音楽スタジオ（1,700円/時）
- ・研修室・会議室（2,200円/時）
- ・キッチンスタジオ（1,700円/時）
- ・創作スタジオ1 [工房]（1,100円/時）
- ・創作スタジオ2 [陶芸]（1,300円/時）
- ・ホワイエ

カフェ・飲食コーナー 9:00～22:00

【駐車場】 無料駐車場 約130台（うち、車椅子、マタニティ専用4台）

【駐輪場】 95台

[石川県野々市市人口54,265人（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・主要機能 図書館、市民学習センター、創作スタジオ等
- ・延床面積 5,695.76㎡
- ・敷地面積 10,882.8㎡
- ・構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
- ・階数 地上2階
- ・開館 平成29年11月
- ・総工費 約41.6億円（建設費用約31億円、ランニング費用及び指定管理料（年次図書購入費含む）約3億円/年）

【施設整備の背景】

- ・市立図書館の老朽化に伴う施設再編
- ・H25：仮称）野々市市新市立図書館・市民学習センター検討委員会設置（H26.6基本構想策定、公表）
- ・H25：野々市中央地区土地利用構想の策定、公表。野々市中央地区土地利用構想により、当該地区はもとより、市全体の発展と活性化を図る観点から、教育・文化施設の機能拡充と、「市民協働のまちづくり」、「野々市ブランドの確立」に資するにぎわい回帰のための拠点整備が計画された。
- ・H26：石川県立養護学校跡地の用地取得

【コンセプト、愛称】

- ・野々市市立図書館がただの図書館ではなく、市民の学びと交流の場として、また市の文化的なシンボルとしての役割を果たすことを意図している。
- ・カレードは英語Kaleidoscope(万華鏡)に由来する。

事業手法等

【事業手法】 PFI（BTO方式）

【事業主体】 野々市中央まちづくり株式会社

（構成企業）

大和リース株式会社(代表企業)

株式会社三上建築事務所、株式会社梓設計、株式会社フジタ、株式会社梓設計、株式会社豊蔵組、株式会社清水建築、株式会社図書館流通センター、太平ビルサービス株式会社、株式会社アイビックス北陸

特記事項

【受賞】

- ・H30年度：第25回いしかわ景観賞 景観賞（景観審議会会長表彰）
- ・R元年度：第40回石川建築賞表彰式 優秀賞

管理運営・施設の特徴

キャッチコピー：市民の新しい生涯学習の場

1. 図書館を囲むように学習センターを配置

- ・図書館を囲むように学習センター（キッチンスタジオ、音楽スタジオ、会議室など）の各部屋を配置しており、児童書エリアを室として分けずオープンな図書館空間として一体化したり、学習センターの各スタジオ付近に関連した書籍を配置したりするなど、来館者の交流を促す空間となっている。
- ・会議室やホールなどの多目的スペースが設けられており、市民の様々なニーズに応えることができるようになっている。

2. 建物を支える大きな本棚の柱「ブックタワー」

- ・施設中央には、天井付近まで本を積み上げた2本のブックタワーを設置し、「知の集積」を象徴的に視覚イメージ化している。ブックタワーは閉架書庫で、“見せる書庫”として機能している。

5. 学びの杜ののいちカレードのシンボル「パオ」児童図書スペース

- ・内部空間のシンボルとなるパオ（昇降幕）には、野々市の原風景の『ののいちの輪』、森羅万象の『世界の輪』が描かれている。野々市出身のアニメーション監督・米林宏昌氏がこの図書館のために原画を提供し、絵が描かれたパオが上下する仕様となっており、お話会のときはパオを下げると周りから囲まれた空間ができる。子どもたちを包み込み、この野々市らしい風景を記憶に刻んでいる。

3. 利便性とアクセス

- ・野々市市の中心部に位置し、周辺には商業施設や住宅地がある。これにより、地域住民にとってアクセスしやすい場所になっており、日常的な利用促進につながっている。

4. 地域コミュニティとの連携

- ・地域の文化活動やイベントの開催にも積極的に協力しており、地域コミュニティの活性化に貢献している。このような取り組みは、地域住民の間での交流を促し、文化的な結びつきを強化する効果を持っている。

6. 環境配慮

- ・施設の設計には環境配慮が取り入れられており、省エネルギー設計や自然光の活用など、持続可能な運営に配慮されている。環境への影響を最小限に抑えつつ、快適な利用環境を提供することを目指している。

⑧岩手県紫波町 オガールプラザ

フロアガイド

休館日：図書館/情報交流館 月曜日

2階

図書館 10時～19時

- ・読書テラス
- ・学習室

子育て応援センター

- ①ひろば（無料）9時～16時（日、祝祭日休）
→就学前のお子さんとその保護者を対象にした「遊び場の自由開放」
- ②一時預かり保育（予約制・有料）9時～16時30分（土日、祝祭日休）
→紫波町在住の1歳から就学前のお子さんが対象
- ③日詰こどもの家（登録制・有料）7時30分～19時（日、祝祭日休）学童保育
→日詰小学校通学児童対象

情報交流館 ITスタジオ 10時～16時

学習塾 月～水曜 14時～21時30分 金・土曜 14時～21時30分 日曜 10時～18時

1階

図書館 10時～19時 休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）、月末の最終平日

- ・一般コーナー ・児童コーナー ・授乳室
- ・おはなしのへや ・あかちゃんのへや

オガールレンタサイクル 10時～17時

情報交流館 10時～21時30分 休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）月末最終平日

眼科 9時-17時（土曜は12時まで）

歯科 9時～17時（土曜は12時30分まで）

マルシェ 9時～18時40分

レストラン 11時～15時 17時～23時（料理L.O. 22:00 ドリンク L.O. 22:30）

クレープ 10時～19時

【駐車場】 無料専用駐車場85台

【駐輪場】 —

[岩手県紫波町33,058人（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・主要機能 図書館、地域交流センター、子育て支援センター等
- ・延床面積 5,822.3㎡
- ・敷地面積 5,880.0㎡
- ・構造 壁式鉄筋コンクリート造及び木造
- ・階数 地上2階
- ・開館 平成24年
- ・総工費 10.7億円（公共部分8.1億円）
- ・主な財源 社会資本整備総合交付金（公共部分）

【施設整備の背景】

- ・H21：町有地（駅前未利用地10.7ha）を活用して、財政負担を最小限に抑え、必要な公共施設の整備と民間による経済開発の複合開発を目的に策定した「紫波町公民連携基本計画」を策定
- ・計画に基づき紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）を実施
- ・公民連携手法による官民複合施設として整備。

【コンセプト、愛称】

- ・このエリアを出発点として、紫波が持続的に成長していく願いを込めている。
- ・紫波中央駅前とフランス語で駅を意味する「Gare」（ガール）＋紫波の方言で【成長】を意味する【おがる】

事業手法等

【事業手法】 PPP（RFQ、RFP方式）

【事業主体】 オガールプラザ株式会社

（出資法人）

紫波町39%、民間等61%出

- ・オガール紫波(株)は官と民が連携するためのエージェントの役割を担う組織として設立され、町と「オガールプロジェクトの企画立案に関する包括協定」を締結している。

特記事項

【同一敷地内の施設】

- ・同一敷地内に、8種の飲食店や7つの販売店の他に、3つのクリニック、2つの体育館、ホテル、図書館、町役場、サッカー場、スポーツジム、美容院、複数のレンタルスペース、様々なサービス業など、複数の施設を整備し、駅前を複合機能を有した拠点として再生している。

【受賞】

- ・H30：日本建築学会賞（業績賞）

管理運営・施設の特徴

1. 公民連携による運営

- ・オガールプラザは、公民連携（PPP）を活用して運営を行っている。公的資金と民間の資金・ノウハウを組み合わせることで、効率的かつ効果的な施設管理が実現されている。
- ・特に、地域の発展を目指すオガールプロジェクトは、多様な公民連携手法を用いて、JR紫波中央駅前の町有地を開発し、にぎわいを創出することに成功している。

2. 分棟を活かした配置計画

- ・中央棟の図書館や地域交流センターと、東・西棟の民間テナントを合築し、建物1階部分にアーケードを設置することで「歩行者と建物」「建物と建物」「建物と広場」をつなぎ、一体的な賑わいのあるまち並みの形成を図っている。

3. 図書館機能と交流機能

- ・図書館を核とする情報交流館（中央棟）は、「情報」を仲立ちとして個々の活動やグループ間の交流を積極的に支援できるよう、図書館機能と交流機能を深く関連づくよう配置している。
- ・「知りたい」「学びたい」「遊びたい」を支援する図書館として紫波に根ざした多様な企画展の開催や「夜のとしょかん」などイベントも充実。産業支援にも力を注いでいる。
- ・交流館には、ミーティングや個人活動ができる小スタジオやアトリエを配置している。ミーティングや研修、コンサートなど用途に応じたスタジオの他、音楽練習、キッチン、アトリエのスタジオは町内外だれでも利用可能となっている。

4. 子育て関連施設

- ・オガールプラザ内にある「しわっせ」は、子育て支援施設として、親子で楽しく過ごせる「ひろば」の自由開放や、様々なイベントの開催。一時預かり保育や学童保育などのサービスも提供しており、地域の子育て家庭を幅広くサポートしている。

5. 地域経済への貢献

- ・オガールプラザは、建設前から入居率100%を達成、家賃に無理がないため、テナントの撤退も回避できていることで、施設は経済的な自立性を保ちつつ、安定した運営を実現している。
- ・民間投資の誘導が図られたことにより、雇用を創出。
- ・エリア価値が高まったことで民間投資が誘導されて、JR紫波中央駅を中心とした500m圏内で人口が増加した。

6. 総合的な健康支援や生活利便施設

- ・波の豊かな風土に育まれた新鮮な農産物が並ぶ売場紫波マルシェ、地産地消を促進し地域ブランドの強化にも繋がっている。
- ・医療施設や学習塾、飲食店など生活利便施設が整っている。

⑨千葉県香取市 みんなの賑わい交流拠点KOMPAS

フロアガイド 開館：8時30分～22時
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌営業日）、年末年始

4階	【貸出施設】9時～22時 ・多目的ホール（小野川ホール） ・音楽練習室大、小 ・屋上レンタルテラス
3階	【貸出施設】9時～22時 ・市民ダイニング・学習室・研修室・和室 ・メディアスペース 市民活動サポートセンター9時～17時 香取市社会福祉協議会8時30分～17時15分
2階	【図書館】9時～19時（19時～22時自動貸出機で貸出可能） ・佐原中央図書館・郷土資料館 【子育て世代支援施設】9時～19時 ・いきいきひろば（屋内遊び場） ・一時預かりルーム
1階	【貸出施設】9時～22時 ・イベントスペース（1時間当たり：600円（昼間） 750円（夜間）） ・市民ラウンジ（1時間当たり：100円） ・展示スペース（9時～22時） 【子育て世代支援施設】9時～19時 ・児童書架 ・遊戯室 ・集会室 カフェ（N35° E140°） 11時～17時30分 千葉銀行 9時～15時

【駐車場】
 駐車台数195台（車椅子用含む）
 利用時間24時間
 料金普通車200円/1時間600円/24時間最大料金
 バス1,600円/1時間（予約制）
 ※施設利用者は3時間無料

[千葉県香取市人口70,096人（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・主要機能 図書館、子育て世代支援施設、生涯学習施設（貸出施設）等
- ・延床面積 5,947.05㎡
- ・敷地面積 9,692.17㎡
- ・構造 鉄骨造
- ・階数 地上4階
- ・開館 令和4年12月

【施設整備の背景】

- ・市街地活性化を図るため、大型店舗跡地等を活用し、公共・公益施設等の生活サービス機能の集積の検討開始
- ・H24：（仮称）情報・交流センター整備事業基本計画を策定。「香取市の観光振興・市民交流の促進」の拠点として施設整備を位置づけ。
- ・H26～27：市民アンケートや（仮称）情報・交流センター整備事業基本計画の見直し。
- ・H28:佐原駅周辺地区複合公共施設整備事業基本計画策定
- ・H29：基本設計策定

※施設整備の背景の年は年度表記

事業手法等

【事業手法】PFI（DBO方式）

【事業主体】いきいきかとりコンソーシアム

（構成企業）

清水建設株式会社千葉支店（代表企業）
株式会社INA新建築研究所、石井工業株式会社、
三菱電機ビルテクノサービス株式会社首都圏第一
支社千葉支店、シダックス大新東ヒューマンサー
ビス株式会社

	香取市	指定管理者
運営	図書館 市民活動サポートセ ンター	生涯学習施設、 子育て世代支援施設、 観光情報発信施設、 駐車場
費用負担	光熱水費	施設運営にかかる費用
維持管理	三菱電機ビルテクノサービス（株）	

特記事項

【館内での飲食】

- ・飲み物は全館自由。
- ・ブックカフェ、市民ラウンジ、市民ダイニング、イベントホール等、食事が可能な部屋も多い。
- ・市民ダイニングと屋上は、アルコール類の持ち込みも可能としているが、条件があり、申請前に相談することとしている。

【名称の条例化】

- ・令和3年7月に施設の名称を募集し、同年12月、応募総数259点の中から最優秀賞「コンパス（KOMPAS）」を決定した。
- ・「みんなの賑わい交流拠点コンパス」は、議会の承認を経て条例に定められた正式名称である。

管理運営・施設の特徴

キャッチコピー：～だれもから親しまれる施設へ～

1. コンセプト

- ・「複合化のメリットを最大限活かした場づくり、新たな賑わいと魅力を発信する場づくり、コミュニティ活動・多世代交流の促進を図る場づくり」を基本コンセプトとし、“交流の拠点”、“集客・魅力創造の拠点”、“生活支援・学び・育成の拠点”の役割を担う。

2. 収入に関する指定管理者との取り決め

- ・想定収入より上回った場合には、上回った分の半分を市へ返還する。
- ・想定収入より下回った場合には、下回った分を市と指定管理者の折半により補填する。

3. 減免制度・優待制度

- ・料金の減免については、市の後援を得ている場合や教育を目的とした利用などに限られ、利用者団体に属していることによる減免制度はない。
- ・指定管理者への減免分の補填はない。（公募の際に、利用者数や減免の率などを示している。）
- ・団体登録（名称：生き生き香取倶楽部）への加入団体は、年間予約や毎年11月1日までに次年度の予約が可能などの優待制度を設けている。（※団体登録条件あり）

4. 複合化による効果

- ・銀行を利用するために来た方がついでに図書館に寄ったり、学習室を利用する若い方が公民館活動を見たりするなど、単体施設では発生し得なかった交流が生まれている。地域交流の拠点が創出され、多くの市民等が来館しており、様々な市民活動や交流が展開されている。

5. 利用人数や目的に合わせて空間調整

- ・研修室（3部屋）、和室（3部屋）、市民ダイニング（2部屋）、学習室（2部屋）は、それぞれ可動式間仕切りを採用し、大部屋として利用することが可能なフレキシブルな空間となっている。
- ・「小野川ホール」は移動観覧席を備え、ホール形式の講演会や音楽発表会、観覧席を格納してのダンス、ヨガなどさまざまな利用が可能。

6. 運営や管理にDXを活用AIカメラによる利用傾向の分析

- ・風除室にAIカメラを設置。AIカメラにより年齢層や時間帯などの利用傾向を分析し、サービス向上を目指している。
- ・1階インフォメーションセンターに遠隔受付システム「T-Concierge」を導入。2階事務所の観光部門につながり、遠隔にて観光案内を中心とした案内業務を行っている。

⑩東京都武蔵野市 ひと・まち情報創造館 武蔵野プレイス

フロアガイド 開館時間：午前 9時30 分～午後 10 時
休館日：水曜日（祝日にあたる場合は開館し、翌日休館）

4階	ワークテラス ・フォーラム ・ワーキングデスク
3階	ワークラウンジ ・市民活動カウンター（施設貸出窓口） ・ワークラウンジ ・市民活動情報コーナ ・スタディコーナー ・スペース（会議室） ・プリント工房 ・生涯 学習、自由大学事務局
2階	コミュニケーションライブラリー ・こどもライブラリー ・おはなしのへや（託児コーナー） ・テーマライブラリー
1階	パークラウンジ ・総合案内 ・マガジンラウンジ ・カフェ ・ギャラリー ・予約資料コーナー ・対面朗読室
地下1階	メインラブラリー ・メインラブラリー ・レファンスカウンター ・サーチバー ・録音室
地下2階	ティーンズスタジオ ・アート&ティーンズライブラリー ・スタジオラウンジ ・オープンスタジオ ・サウンドスタジオ ・クラフトスタジオ ・パフォーマンススタジオ
地下3階	【有料 駐車場】 台数：28台 料金：30分200円 駐車可能サイズ：積載量 2,500 kg 車幅 2m車高 2.4m全長 5.6mまで 利用時間：午前 9時30 分～午後 10 時

【無料駐輪場】
台数：240台（自転車 236台、自動二輪（125cc以下）4台）
利用時間：午前 9時30 分～午後 10 時

[東京都武蔵野市人口148,025人（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・主要機能 図書館、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援
- ・延床面積 9,809.76㎡（駐車場等の面積 938.71㎡）
- ・敷地面積 2,166.20 ㎡
- ・構造 鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄筋コンクリート造）
- ・階数 地上4階、地下3階
- ・開館 平成23年7月
- ・総工費 44.7億円
- ・主な財源 一般財源

【施設整備の背景】

- ・H10 食糧庁跡地取得が完了
- ・H11 「武蔵野市中心市街地活性化基本計画」を作成
- ・H11：跡地の北側半分(2,162.1平方メートル)を恒久的に公園として残すために、都市計画公園として都市計画決定
- ・H12 「新公共施設基本計画策定委員会」を設置
- ・H13 「市第三期長期計画第二次調整計画」において、「武蔵境のまちづくりの推進」の一環として施設を位置づけ
- ・H15 武蔵境新公共施設設計プロポーザルを実施
- ・H19 「武蔵野プレイス（仮称）管理運営基本方針」を策定

※施設整備の背景の年は年度表記

事業手法等

【事業手法】 指定管理者

【事業主体】

公益財団法人 武蔵野文化生涯学習事業団

管理運営・施設の特徴

1. 活動支援型の公共施設

- ・複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動通して人と人が出会いそれぞれが持っている情報（知識や経験）を共有・交換しながら、創造的交流生み出し、地域社会（まち）の活性化を深められるような支援型公共施設となっている。
- ・建設計画策定委員会最終報告書では施設全体を一つの組織として捉え、一体的・有機的に管理運営することを基本とし開館時から指定管理制度を採用している。

2. 指定管理者制度の導入による、4機能をワンストップにまとめる運営

- ・施設の有する4つの機能（「図書館」「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」）を横断的に運営可能な民間主体に指定管理者として施設の運営を担わせることを決定。市の外郭団体である公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団を指定管理者として指定し、その中で4機能に横断的に従事する人員を採用・育成している。
- ・専門性を求めた採用は行っていないが、各機能ごとに定期的な研修を実施している

3. 5つめの機能の存在（カフェ）

- ・カフェは1階中央に位置し、誰もが利用しやすい5つめの滞在・飲食等の機能を担っている。施設が駅前であり、待ち合わせの利用も多いほか、図書館の本を持ち込んでの飲食や学習スペースとしても利用されている。
- ・大規模な全国チェーンではなく、地場の事業者による運営のため、施設利用者のニーズに合った運営を可能としている。

4. 施設の建築考え方

- ・空間ブラウジング：動線ではなく、空間の差異性による回遊性をもたらすよう、極力間仕切りをなくしたオープンな空間としている。来館目的外の機能、スペースの利用を促す。
- ・内部空間：人にやさしい包み込むようなと、角を取り除いた曲線を採用。
- ・環境配慮：屋上全面緑化、深夜電力の活用及び輻射式空調の採用（防火水槽としても機能）、段階的な照明による削減

5. 老若男女を問わず集う場（プレイス）づくり階ティーンズスタジオ（青少年向けフロア）

- ・青少年（20歳になった年の年度末までの方）専用のラウンジやサウンドスタジオ、パフォーマンススタジオ、クラフトスタジオ等、青少年の活動をサポートする空間も充実している。
- ・アート・ティーンズライブラリー：青少年向け図書・雑誌と、芸術系の図書合わせて約1万8000冊を配置。
- ・スタジオラウンジ：フロアの中央に位置し、青少年が自由に過ごせるラウンジ形式のフリースペース。青少年の居場所として多様な過ごし方ができるようなフロア構成。※自由利用

特記事項

【利用状況等】

- ・10代の利用割合がもっと高く、若年層が多い施設である。
- ・毎年モニタリング調査を実施しており、令和2年度以降、総合満足度95.9%⇒93.6%⇒89.1%⇒89.1%⇒89.1%と高水準を維持。

【課題】

- ・文化、スポーツ、生涯学習の事業連携によるブランディングの強化。
- ・当初の想定以上来館者があり、施設や備の劣化が早まっており、前倒しで修繕を実施する必要がある。

【受賞歴】

- ・H 28 年6月：日本建築学会賞（作品）受賞
- ・H 29 年12 月：日本ファシリティマネジメント大賞・最優秀ファシリティマネジメント賞（鶴澤翔）受賞

先進的取組み事例

● 小学校の複合化・共用化事例

	施設名	自治体	概要	特徴（参考ポイント）	頁
①	志木市立 志木小学校	埼玉県 志木市	小学校・公民館・図書館の複合化	動線共通 特別教室共用	23
②	近江八幡市立 桐原小学校	滋賀県 近江八幡市	小学校・保育施設・公民館の複合化	動線分離 特別教室共用	24
③	調布市立若葉小学校	東京都 調布市	小学校・中学校・図書館の複合化 ※現在進行中	動線分離 PFI	25
④	立川市立若葉台小学校	東京都 立川市	小学校の統合・新設、多目的室の共用化	動線分離 多目的室(ホール)共用	26
⑤	安平町立 早来学園	北海道 安平町	小中学校の特別教室の共用化	動線分離 特別教室共用	27

① 埼玉県志木市 志木市立志木小学校

管理運営・施設の特徴

- 1. 地域コミュニティに支えられた 学社融合施設 相互活用・交流活動**
 - ・学校と社会教育施設の学社融合施設として、設備も人も活用した独自のカリキュラムにより、学習内容や活動の幅を広げる。
 - ・小学校は、資料の豊富な公共図書館も活用可能（本の貸出しだけでなく、1日約3クラスが授業でも利用。）
 - ・音楽室やPCルーム、ホール等は共有で使用可能である。
 - ・小学校のクラブ活動や課外活動を、公民館の利用団体が支援している。
 - ・社会教育施設と連携した多角的な教育活動が実施されている。
- 2. ハード・ソフト両面における防犯対策**
 - ・児童と公民館・図書館利用者との動線はあえて明確に分けず、大人の目で児童を守るという方針で運営している。
 - ・学校の安全主任は図書館と公民館の担当者と適宜打合せを実施、施設の管理運営委員会において危機管理マニュアルを作成、常駐警備員の配置、施設合同の避難訓練・防犯訓練（年に3回）、防犯監視カメラの設置（20台）、利用者は入館証を着用、全職員・教職員がPHSを携帯している。
- 3. 見通しの良いオープンな空間**
 - ・各棟は中庭に向かってガラス張りとなっていることに加え、教室と廊下の間にも壁を設けないことで見通しの良い空間を実現している。通りすがりの市民も気軽に授業の様子を見ることができるような設えとなっている。
 - ・各教室に隣接してオープンスペースが設けられており、多様な学習形態に対応した柔軟な運営ができるような設えとなっている。

4. 管理・運営体制

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
いろは遊学館	9:00～22:00	教育委員会	直営	5	5
いろは遊学図書館	9:30～19:00	教育委員会	直営	3	5
(志木小学校)	8:45～15:45	市長部局		37	33
(学童保育クラブ)	14:45～19:00	市長部局	委託		

[埼玉県志木市人口76,165人（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・主要機能 小学校、公民館、図書館
- ・延床面積 13,345㎡（小学校10,489㎡、いろは遊学館1,704㎡、いろは遊学図書館1,034㎡）
- ・敷地面積 11,264㎡
- ・構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造
- ・階数 地上4階、地下2階
- ・開館 平成15年4月
- ・児童数 926人
- ・総工費 33億円(志木小学校を含む)（主な財源…起債、自己財源、国庫支出金、県費補助金）

【施設整備の背景】

- ・志木小学校と、近接する公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題の解決策として、学社融合施設とする案が浮上。
- ・H11：志木小学校公民館図書館複合施設検討委員会設置
- ・既存校舎のうち、北・西校舎は取り壊し、南校舎は耐震補強をし残すこととした。

②滋賀県近江八幡市 近江八幡市立桐原小学校

管理運営・施設の特徴

小学校と地域コミュニティの複合施設で、地域に根ざした教育環境を整備

1. 地域住民が一体となり、コミュニティエリアの方針を整備

- ・小学校・コミュニティセンター・学童施設の複合化にあたり、それぞれの関係者や地域住民が参画し、計画・体制などのソフト面が整備された。
- ・地域住民で構成された「桐原コミュニティエリア再構築委員会」において、小学校施設とコミュニティセンター施設について、目指す姿や整備方法について検討が行われた。

地域：桐原コミュニティエリア再構築検討委員会

→ まちづくり協議会、自治会、小学校、幼稚園から構成

市：桐原地区コミュニティエリア整備事業プロジェクトチーム会議

→政策推進課、まちづくり支援課、財政課、管財契約課、危機管理室、子ども支援課、土木課、農業振興課から構成

2. 児童がワークショップに参加し、新校舎の建設に関わる

- ・建設中には、キャリア教育の一貫として、新校舎を設計する思いや苦勞を子どもたちに知ってもらうために、当時の5年生に向けた勉強会を開催した。
- ・校内の4つのテラスには、当時の5、6年生が作成した作品を、大阪市立大学の学生の協力を得て陶板レリーフとして飾っている。3、4年生にはトイレのサインのデザインをしてもらうなど、小学校の建設にユーザーである生徒が関わることで、愛着を持って使われるように考えられた。

3. 地域への開放

- ・地域の防災拠点となるため、コミュニティエリアの人口の約1割となる1,700人を収容できるように設計され、体育館や多目的ホールはコミュニティセンターと小学校の中間点にあり、夜間、休日など小学校で使わない時には地域開放し利用可能となっている。
- ・学校施設を利用し、地域の人による子ども食堂を年4回実施し、地域の人が気軽に訪れるようにしたり、課外活動には地域の人がボランティアで参加するなど、地域と学校が連携しやすい体制をつくっている。

[滋賀県近江八幡市人口81,782人 (R6.6月現在)]

【施設概要】

- ・主要機能 小学校、保育施設、公民館
- ・延床面積 10,587㎡
- ・敷地面積 8,810㎡ (学校のみ)
- ・構造 鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造)
- ・階数 2階
- ・開館 平成24年
- ・児童数 572人

【施設整備の背景】

- ・東日本大震災を契機として、学校の耐震化対策と合わせて、地域活動の利便性の向上と地域防災拠点とするために、小学校をコミュニティセンターとの複合施設を決定。
- ・「桐原コミュニティエリア」は地域コミュニティ拠点として、老朽化した小学校を建て替える上で、環境設備を整え、地域と学校が連携して子どもの教育に携われるような体制を整えた。

【コンセプト】

- ・人々の交流が自然に生み出される質高い「場」を提供し続けることによって、生活文化芸術自然歴史まちづくり、ボランティア活動市民生涯学習福祉教育といった横断的な活動や交流のネットワーク活性化を促す。

③東京都調布市 調布市立若葉小学校

管理運営・施設の特徴

基本コンセプト・基本方針

1. 基本方針

- ・ 1、高機能かつ多機能で変化に対応し得る弾力的な教育環境の整備
- ・ 2、健康的かつ安全で豊かな教育環境の確保
- ・ 3、地域の生涯学習やまちづくりの核としての施設の整備

2. 施設の整備概要

- ・ 想定通常学級数（通級を含む）：小学校30学級、中学校15学級
- ・ 想定児童・生徒数：小学校960名、中学校：450名
- ・ 想定職員数：小学校70名、中学校：70名

<新校舎等>

- ・ 若葉分館蔵書数：一般開架（3万2千冊以上）、児童開架（1万2千冊以上）
- ・ 小学校・中学校・若葉分館は一体の校舎等として整備
- ・ プールは現小学校敷地のプールを存置
- ・ 現小学校敷地を中学校用の校庭として整備
- ・ 現中学校敷地を小学校用の校庭として整備

3. 想定面積等

	若葉小	第四中	図書館
校舎等	約17,500㎡ 屋外付帯施設：適宜		
校庭	約4,700㎡	約5,800㎡	—
駐車場	約10台（管理・来客用）		約2台
駐輪場	約90台（職員・来客用）		5台

4. PFIの手法を用い、新校舎等の施設整備を設計・施工一括方式

- ・ 事業者が施設を設計・施工して、施設完成直後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理と運営を行う（BTO）方式で実施

<今後のスケジュール>

- ・ R5～6：事業者選定等
- ・ R6～7：基本・実施設計
- ・ R7～9：新校舎建設工事
- ・ R9：供用開始
- ・ R9～10：校舎解体外構工事

[東京都調布市 人口239,640人 (R6.6月現在)]

【施設概要】

- ・ 主要機能 小学校+中学校+図書館
- ・ 敷地面積 10,278.96㎡（現小学校敷地）
20,753.94㎡（現中学校敷地）
- ・ 児童数 R6 28学級730人
- ・ 生徒数 R6 11学級362人

【施設整備の背景】

- ・ 若葉小学校の児童数の増加に伴う不足教室対策、また第四中学校の今後の生徒数の増加に伴う不足教室が発生する可能性と校舎の老朽化が課題。
- ・ 小学校敷地に隣接する図書館若葉分館においても施設の老朽化やバリアフリー対応が困難なこと等の課題があった。
- ・ R2：調布市立若葉小学校・第四中学校及び図書館若葉分館 施設整備に関わる基本方針を策定
- ・ R3：検討委員会を設置、調布市立若葉小学校・第四中学校及び図書館若葉分館施設整備基本構想の策定
- ・ R5：調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館施設整備に伴う基本計画を策定

④東京都立川市 立川市立若葉台小学校

管理運営・施設の特徴

- 1. 新しい時代の学びを実現するため創意工夫して学習空間を計画している学校**
 - ・様々な学習形態にフレキシブルに対応できる教室まわりや、図書室を中心とした多目的室や特別教室のまとまりをラーニング・コモンズとして整備するなど、新しい時代の学びの実現に向けた学習空間が計画されている。また、内装には多摩産の木材等が使われており、温かみとうるおいのある快適な室内環境が実現している。
- 2. 児童がワークショップに参加し、新校舎の建設に関わる**
 - ・新校舎の計画は、新校舎建設マスタープラン検討委員会をはじめ、アンケート、ワークショップ、学校ヒアリング等により、子どもたちや保護者、教職員や地域の方々から様々な意見を聞きながら進められた。
- 3. 読書学習情報のセンターとなるラーニングコモンズ**
 - ・どの教室からも利用しやすいよう図書室を格好の中心に計画。図書室を中心とした多目的室や特別教室のまとまりをラーニングコモンズと位置づけ。
 - ・図書室は間仕切りのないオープンな空間で書架と閲覧机だけでなく、カーペットや畳を敷いた小空間がある他、階段で直接、閲覧学習しとつながるように計画されており、子供たちが日常的に立ち上がりやすい身近な場所となっている。
- 4. 地域開放、地元住民との繋がりが生まれる空間づくり**
 - ・昇降口を入れて右側に設けられた「地域開放用玄関」の扉の先には、多彩な用途で活用できる多目的スペース「すずかけホール」がつくられた。校舎沿いのすずかけ通りに面した壁面を全面ガラス張りにすることで、視覚的に街とホールがつながる、開放的な空間となっている。
 - ・さまざまな場面での活用が求められたすずかけホールには、大型スクリーンと手動式の移動観覧席を導入。すずかけホールの誕生、そして移動観覧席の導入によって、鑑賞会や発表会、パブリックビューイングなどが快適な環境で開催できるようになりました。さらに、児童のプレゼンテーションの場として活用されるなど、子どもたちの学びの幅も広がり、今ではなくてはならない場所となっている。

[東京都立川市 人口186,164人 (R6.6月現在)]

【施設概要】

- ・主要機能 小学校+学童保育
- ・敷地面積 15,979㎡
- ・保有面積 10,739㎡
- ・構造 鉄筋コンクリート造 (一部S造, SRC造)
- ・階数 4階
- ・開館 令和3年
- ・児童数 20学級500人 (うち特別支援学級3学級22人)

【施設整備の背景】

- ・若葉町には旧けやき台小学校と旧若葉小学校の2つの小学校があったが、両校ともに、児童数の減少が見込まれており、施設の老朽化も進行。小規模校の課題解消の求められていた。
- ・H26：けやき台小学校と若葉小学校の統合及び新学校建設に関する請願」が提出され採択。
- ・H27：けやき台小学校と若葉小学校を統合し新学校を設立する方針」を教育委員会決定。「けやき台小学校の敷地に新校舎を建設する方針」を市長決定。
- ・H28：立川市新校舎建設マスタープランを策定

【コンセプト】

- ・学校づくりの理念：共に学び共に育つ学校づくり

⑤北海道安平町 安平町立早来学園

管理運営・施設の特徴

ICT活用と空間の多機能化で、地域と交流を深める義務教育学校を実現

1. 子どもと協働の学校づくり

- ・学校づくりには、児童・生徒・町民参加のワークショップである「新しい学校を考える会」や教職員検討会を複数回実施。町内外の人々の意見を取り入れ、教員・保護者・地域住民・ボランティアと学校の連携や協働を促す、「みんなの学校」となる環境づくりを目指した。

2. 地域開放

- ・早来小中学校の体育館や会議室などの施設を目的・時間を問わず、オンラインで予約することで利用することができる。
- ・図書室は地域の人が自由に利用できる「開放エリア」、家庭科室・美術室・音楽室・体育館などの特別教室は、学校が利用していない時には地域の人が利用できる「共用エリア」となっている。

3. ICTによるセキュリティ

- ・児童・生徒と地域住民の入口を分け、ICTを活用した予約システムやスマートロックを導入してセキュリティを確保。児童・生徒が利用しているときには地域住民側の入口が施錠され、地域住民が利用しているときには、学校側の入口が施錠される。ICT活用で、学校施設の開放を教員の労力に頼らず、負担を軽減して教育に専念できる管理運営体制を整備した。

4. 建物や備品のアレンジで、空間を多機能化

- ・特別教室の稼働率を考え、フレキシビリティを高め、地域活動や教育のニーズに対応する設計としている。学校が利用する「家庭科室」「美術室」「音楽室」は地域住民が利用することで、まちの「キッチン」「アトリエ」「スタジオ」として使用することで空間の多機能化を実現。
- ・体育館のステージは、学校でも特に稼働率の低い空間になる。そこで、ステージ上に仕切りを設置して空間を独立させ、音楽室として使用可能としている。

5. 教室配置の工夫

- ・義務教育学校として9年間通う学校は、日々通うなかで飽きないように、空間にさまざまなデザインを取り入れた。
- ・1年生から6年生までの前期課程の教室は、各学年の成長段階に合わせて異なるデザインとした。後期課程である7年生から9年生は教室を持たず、教科ごとに教室を移動する「教科教室型運営方式」を採用。教室の代わりに、拠点となるホームベースを設けた。

[北海道安平町人口7,318人（R6.6月現在）]

【施設概要】

- ・主要機能 小中学校
- ・延床面積 7,089㎡
- ・敷地面積 52,780㎡
- ・構造 鉄筋コンクリート造+木造・鉄骨造
- ・階数 地上2階
- ・開館 令和5年
- ・児童・生徒数 137人（1-6年生）

【施設整備の背景】

- ・平成30年（2018年）発生の北海道胆振東部地震で被災した早来小中学校の再建に合わせて、老朽化の進む近隣の3小学校を統合した義務教育学校として令和5年（2023年）4月に開校

【コンセプト】

- ・地域の公民館図書館としての機能も持たせており、「自分が世界と出会う場所」をコンセプトに、学校と地域が一体になった、まちのコミュニティセンターとなる学校を実現